

CSR Outline 2019

Corporate Social Responsibility Report



ザ・パックフォレストマーク
ザ・パックの環境基金と
森林保全・植林事業活動のマークです。

 **ザ・パック株式会社**

<http://www.thepack.co.jp>



印刷：西日本印刷工業株式会社 1907

THE PACK CORPORATION

CONTENTS

トップ・メッセージ	P.2
企業理念体系とSDGsのかかわり	P.3～4

01 環境への取組み P.5～8
事業活動に伴う環境負荷を削減することは、すべての企業にとって重要な課題です。CO₂排出量や廃棄物の削減、環境対応商品の開発など、さまざまな取組みを推進しています。

02 ザ・バックフォレスト P.9
原材料の多くを紙が占める当社にとって、森林を守りながら資源を活用することが不可欠です。CSV活動の一環として、環境対応商品の販売額の一部を拠出し、森林保全活動を行っています。

03 品質管理 P.9
お客様によりご満足いただける製品をお届けするために、厳しい品質管理を行い、日々改善に努めています。

04 人材育成と職場づくり P.10
経営理念「人を大切に、人を育てる経営」のもと、社員一人ひとりがレベルアップし、それぞれの個性に合わせて活躍できる制度を用意しています。

以下の項目は「CSR REPORT 2018」をご覧ください。

社会貢献活動 コーポレート・ガバナンス / コンプライアンス

編集方針

ザ・バックでは、CSR活動や報告のあり方(報告内容、データ・資料の収集方法等)について、3年に1度見直しを行います。そのため「CSR Outline 2019」では、重点的に取り組んでいる「環境への取組み」を中心に記述しています。

その他のCSR取組み(社会貢献・コーポレート・ガバナンス/コンプライアンス等)については、「CSR REPORT 2018」でご覧いただけます。本レポートの発行目的は、株主・お客様・社員をはじめとするステークホルダーの皆様へ情報を開示し、ご意見をいただくことで、より深いCSR活動の推進に繋げていくことです。編集にあたっての主なポイントは、右記の3点です。

- ザ・バックによる環境的影響の中で、特にステークホルダーの皆様からの評価や判断に影響を及ぼす重要な事象・データを優先的に報告しております。
- 経営者のトップ・メッセージを通じて、ザ・バックが目指す企業像やCSRについてご紹介しております。
- 社員教育ツールとしても役立つように編集しています。

【報告の対象期間】 2018年度(2018年1月1日～2018年12月31日)

【報告の対象組織】 ザ・バック株式会社の本社、営業所、工場

トップ・メッセージ

Top message

当社はトータルパッケージのソリューション企業として、パッケージに関わる「製造」「販売」「物流」を総合的にプロデュースできる一貫体制をとっています。

近年、世界経済の急激な拡大や、人口増加、気候変動などにより、社会や経済が不安定になり持続可能性が問われています。当社をとりまく環境も大きく変化しており、パッケージに求められる機能も時代と共に変化しています。

この数年はeコマースの台頭によりリアル店舗の規模が縮小し、当社の主力製品の紙製ショッピングバッグの販売が苦戦しました。しかしながら、昨今の廃プラスチックへの取組みの一環として紙製パッケージへの切り替えが進むなど、非常に速いスピードで変化しています。

企業活動は地球にある多くの資源を活用し、環境負荷を低減しながら事業活動を続けなければなりません。当社も環境負荷の低減活動として、継続的に使用エネルギーと廃棄物の削減に取り組んでいます。

また、当社の取扱う製品は紙袋や紙箱、段ボール製品など主に紙を素材としています。その紙の原料となる木材を生み出す森林の保全活動として、NPO法人地球と未来の環境基金と協働で、お客様や各活動地の自治体と共に植林や間伐活動に取り組んでいます。

2015年9月にニューヨークで開催された「国連持続可能な開発サミット」で、17の目標と169のターゲットからなる「SDGs(持続可能な開発目標)」が採択されました。

世界的な課題である貧困や飢餓、エネルギー、気候変動、平和的社会などの解決に向けて、国だけでなく企業にも積極的な行動が求められています。当社は現在の事業活動を通じてさまざまな取組みを進めており、ひとつずつ目標の達成に向けて活動をしています。また、社内に掲げる環境理念の中でも、“人と自然を愛し、夢のある未来をみつめ、かけがえのない地球を大切に”とうたっています。企業の責任として多くの課題を解決していくことを通じて、次の世代へより良い環境や持続可能な社会を引き継ぐ努力を重ねてまいります。



ザ・バック株式会社
代表取締役社長

稲田 光男

企業理念体系とSDGsのかかわり

Corporate philosophy system chart & SDGs (持続可能な開発目標 Sustainable Development Goals)

当社では、社は「愛し愛され」、経営理念「人を大切にし、人を育てる経営」のもとでの様々な取組みを実施し体系図に表しています。これらの取組みを国連が提唱しているSDGs(持続可能な開発目標)の観点から整理しました。



企業理念体系	ザ・パックでの取組み	SDGsの持続可能な開発目標との関連 (○は関連する項目)																
		3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
コーポレート・ガバナンス (コンプライアンス) に関わる項目	「健康経営宣言」を発表し、定期的に健康診断とストレスチェックを実施している	○																
	持続可能なライフスタイル、人権、男女の平等に関する研修を実施している		○	○														
	育児・介護支援を実施している			○				○										
	女性活躍推進のための行動計画を策定している			○				○										
	障がい者の雇用など、障がい者が社会へ参加する支援を行っている							○										
	安全・安心な労働環境を促進するために、研修や設備、マニュアルなどの整備を行っている							○										
	年齢、性別、障がい、人種、宗教等によって、差別をしていない			○						○								
	ハラスメント行為があった場合、報告を受け、原因を追求し、再発防止策を施している			○														○
	内部統制、内部監査を通じて賄賂の要求や支払がないか、監視している																	○
	仕入先に対し「反社会勢力の排除に関する誓約書」の提出を要求している																	○
主力商品 ・紙袋・印刷紙器 ・フィルムパッケージ ・段ボール	プラスチックラミネートに代わる表面加工技術										○		○	○				
	食品用プラスチック包材に代わる酸素ガスバリア性を有する紙製包材										○		○	○				
	発泡スチロールに代わる紙製緩衝材										○		○	○				
	リサイクル可能な段ボール製収納什器										○		○	○				
企画・提案 物流・生産	原材料使用量の少ない製品の提案をしている										○							
	製品の生産において、紙・インク、その他の資源の消費を削減している										○							
	水の利用量を生産量に対応して削減している					○					○		○					
環境・品質 マネジメントシステム	有害な化学物質の利用を削減している										○							
	有害な化学物質を含む廃液を適切に回収・処理している										○							
	製品の生産以外での事業活動において、紙その他の資源の消費を削減している										○							
	CO ₂ 排出量(原単位)の削減をしている										○							
環境対応商品の開発	FSC® 認証製品等の持続可能な原材料を調達している											○					○	
	アフターユースのできる製品の開発をしている											○						
	環境負荷の低い素材の開発と提供をしている											○					○	
ザ・バックフォレスト	CO ₂ を年間132t削減している											○					○	
	森林、山地生態系の保全や回復、劣化した土地・土壌の回復に取り組んでいる					○						○	○	○				
	生物多様性に配慮した樹種を植樹している																○	
社員のボランティア活動 (社会貢献活動)	「モノづくり教育支援事業」で小学生に体験教室を開催している		○															
	事業所の周辺清掃を行い、地域の廃棄物を回収・処理し、快適な環境を保っている																○	
人材育成	職業能力を向上させるための研修を実施している		○	○													○	

01 環境への取組み

Environmental activities



当社は、全社で環境への取組みを促進しています。国内の全工場・事業所で2006年にISO14001の認証を取得し、CO₂排出量や廃棄物の削減、環境対応商品の開発など、さまざまな取組みを行っています。環境省の低炭素社会実現に向けた気候変動キャンペーン「Fun to Share」にも参加しています。

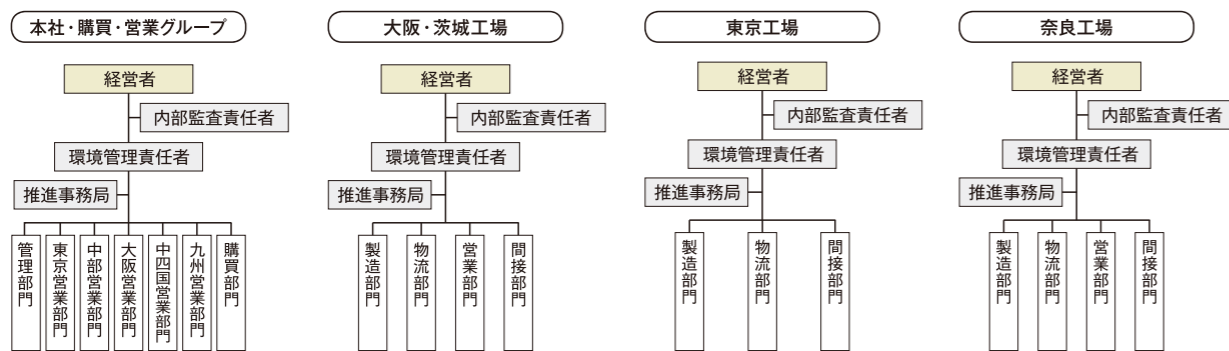
環境理念

私たちは 人と自然を愛し
夢のある未来をみつめ
かけがえのない地球を大切に
広く社会に貢献します

環境基本方針

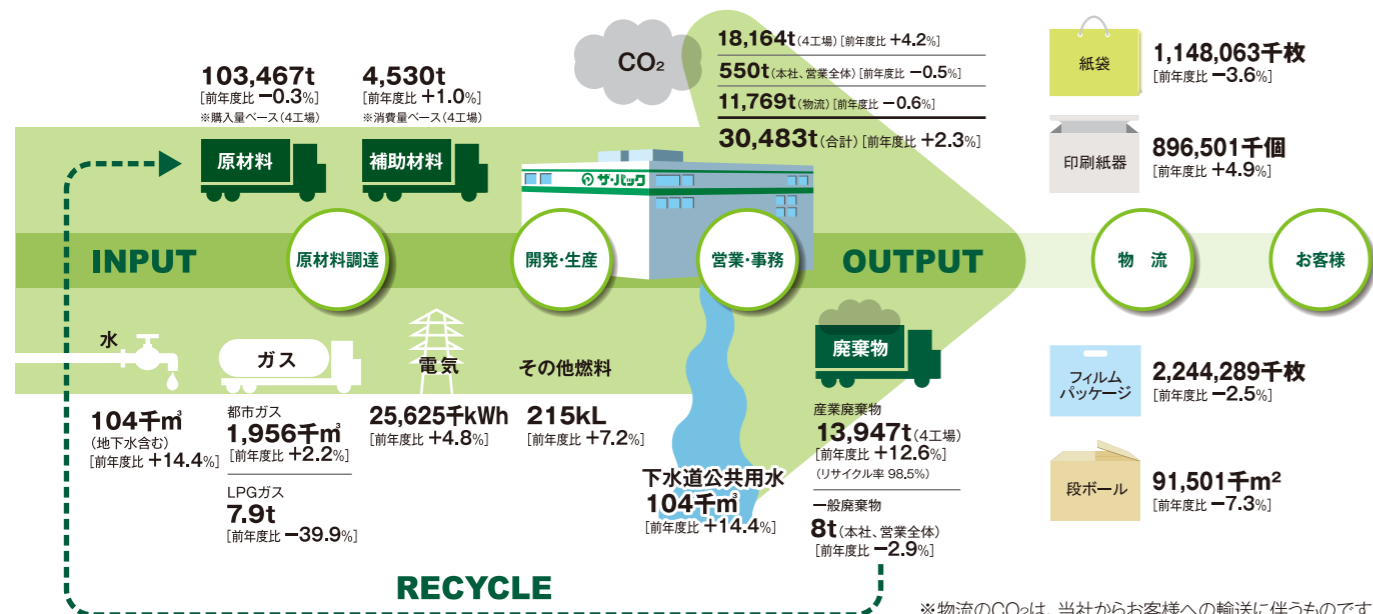
1. 安全と環境に配慮した商品開発と技術開発を推進します。
2. 資源、エネルギーを大切にし、廃棄物の最小化とその再生利用に努めます。
3. 環境活動を通じて、顧客満足度を追求していきます。
4. 社会、地域における環境保護運動に積極的に参画します。

環境マネジメント組織体制



環境負荷の全体像

生産活動全体における環境負荷を把握し、負荷の低減に向けて取組んでいます。
※4工場(大阪工場、奈良工場、東京工場、茨城工場)及び本社・営業グループのデータを記載しています。



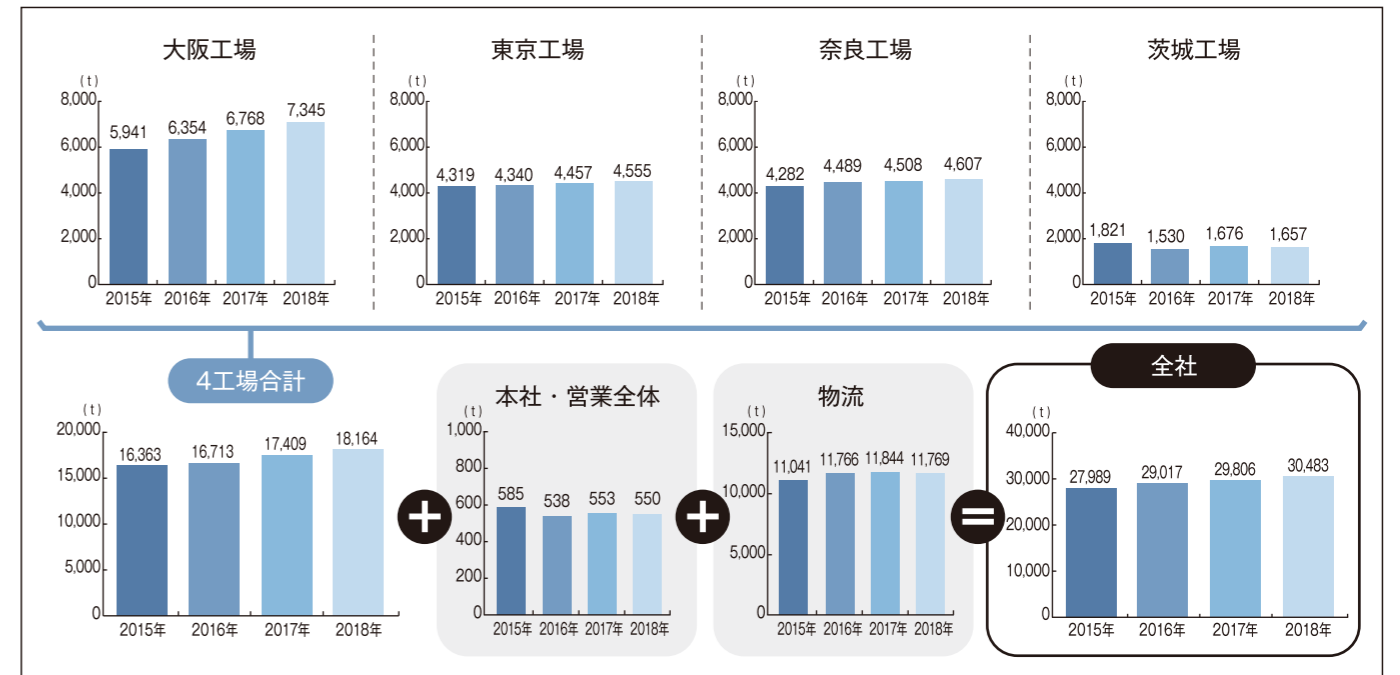
※物流のCO₂は、当社からお客様への輸送に伴うものです。

量的変化

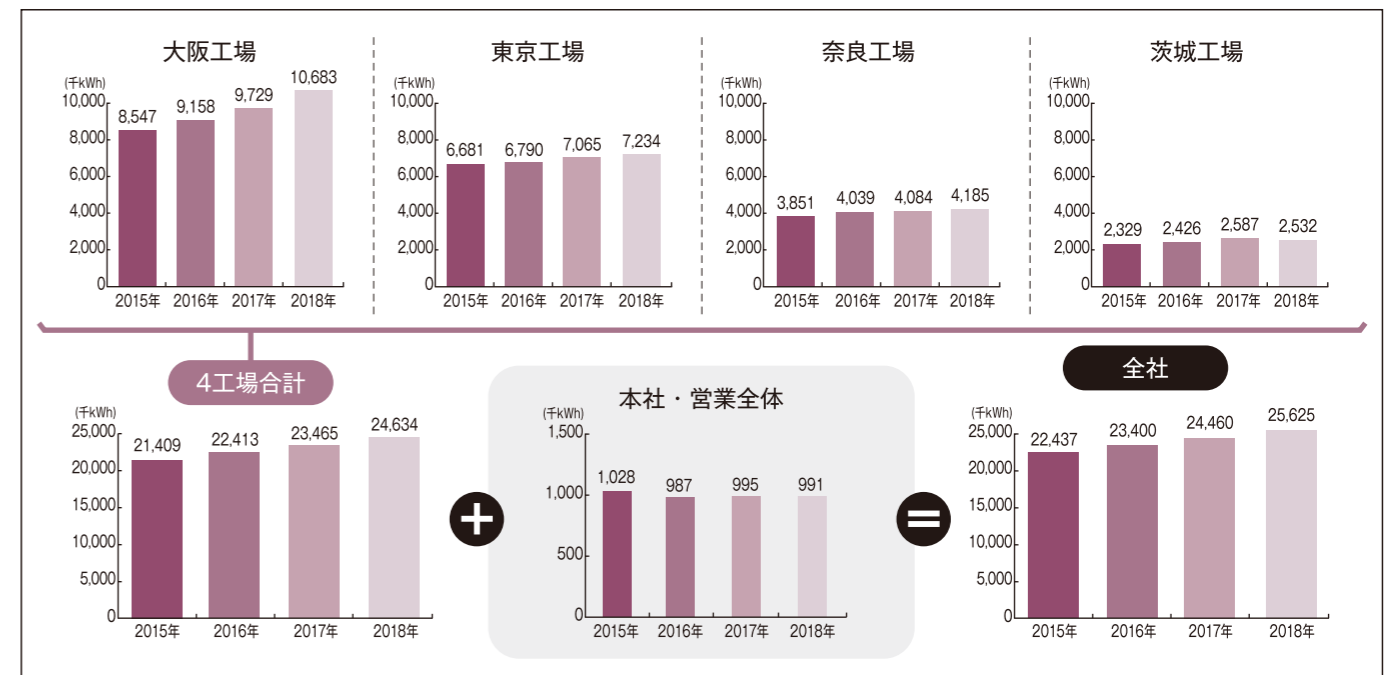
本社・営業グループおよび4工場では、省エネ活動や高効率機器の導入などによるCO₂の削減に取り組んでいます。また、産業廃棄物の削減や、リサイクル率の向上にも取り組んでいます。

2018年度はCO₂排出量増加、CO₂排出原単位は前年同様です。産業廃棄物の排出量は増加していますが、リサイクル率は98.5%、廃棄物の削減を進めています。

CO₂排出量

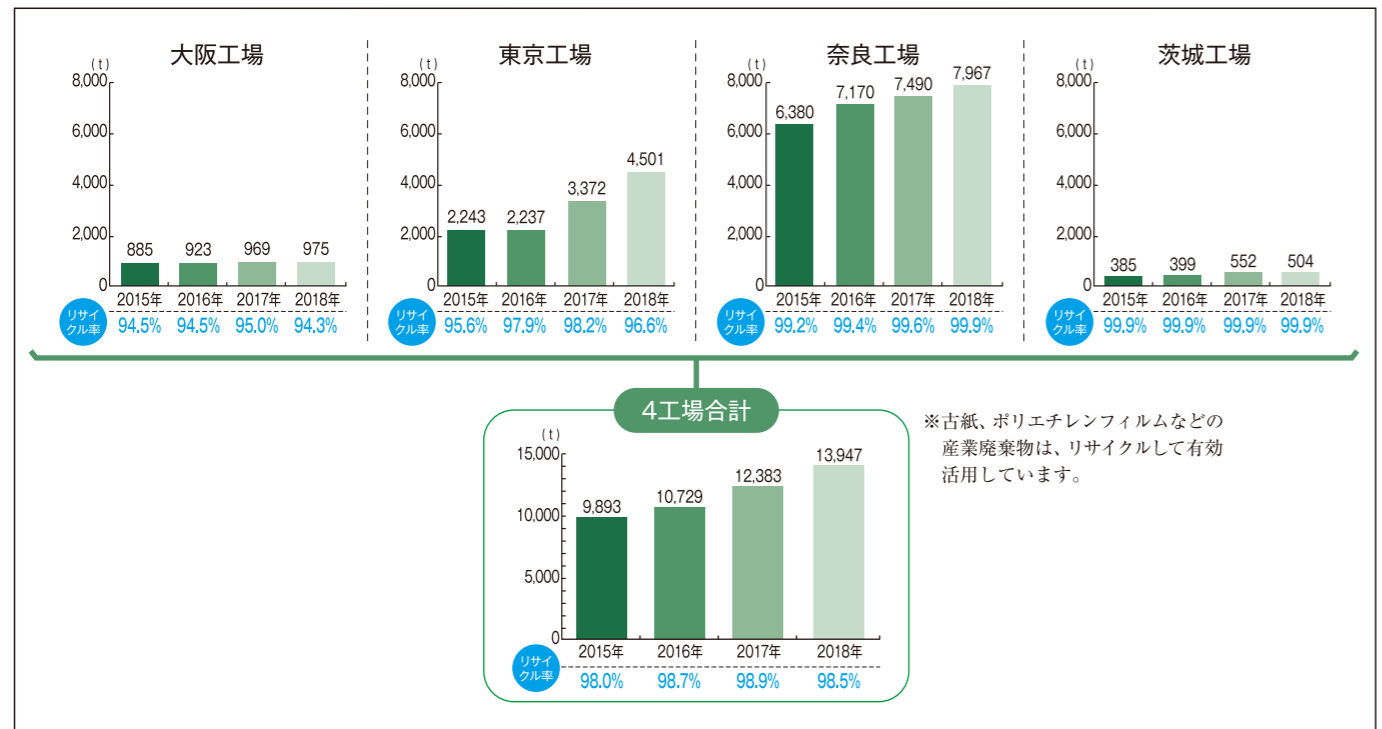


電気使用量



※自社で設置している太陽光発電による発電量は含みません。

産業廃棄物排出量とリサイクル率 4工場合計の2018年度リサイクル率は**98.5%**です



化学物質の適正管理

製造工程で使用する化学物質について、PRTR法にもとづき適正に管理するとともに、生産量に対して排出量の削減を進めています。2018年度は前年より生産量が増えましたが、化学物質の取扱量は前年とほぼ同程度となりました。

PRTR法に定める第一種指定化学物質の取扱量(4工場合計)

対象化学物質	含まれる材料	2015年	2016年	2017年	2018年
トルエン	接着剤	0.7	0.9	0.9	1.0
キシレン	接着剤	0.0	0.0	0.0	0.0
フタル酸エステル類	接着剤	1.8	1.9	1.6	1.2
ハウ酸及びその化合物	接着剤	1.6	1.5	1.6	1.7
モノクロロベンゼン	接着剤	0.6	0.6	0.6	0.8
ジクロロメタン	オフセット印刷洗浄剤	0.0	0.0	0.0	0.0
1,2-ジクロロプロパン	オフセット印刷洗浄剤	0.0	0.0	0.0	0.0
合計		4.7	4.9	4.7	4.7

環境目標

本社・営業グループ、工場ごとに、環境目標を設定しています。2018年度の目標と結果は以下の通りです。

2018年度 環境目標		目標	結果
本社並びに営業グループ	フォレスト商品(※)の拡販	フォレスト商品の2013年売上高を7.0%向上する。	+7.0% ○
	廃棄物の削減	事業系一般廃棄物排出量を2013年に対し、35%削減する。	-35.0% ○
	省エネルギー活動の推進	電気使用量を2013年に対し、2%削減する。	-2.0% ○
	森林保全活動	森林保護運動を毎年7回実施する。	7回 ×
大阪工場	環境対応素材・加工技術の開発	毎年3件開発する。	3件 ○
	省エネ	CO ₂ 排出原単位の削減 過去5年平均に対し、1%削減する。	-1.0% ○
東京工場	省エネ	CO ₂ 排出原単位の削減 2012年に対し24%削減する。	-24.0% ○
奈良工場	省エネ	CO ₂ 排出量(原単位)の削減 対前年0.5%削減する。	-0.5% ×

※バガス、フォレストライト、カスタードカラー、シュガーブラウン、バイオロープ等を使用した商品は、ザ・バック フォレスト基金対象のフォレスト商品です。

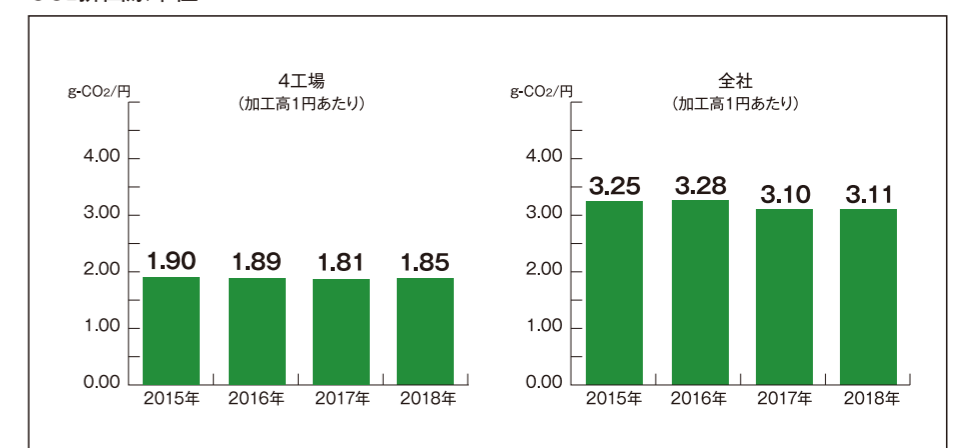
CO₂削減活動

2010年よりCO₂削減活動キャンペーンを全社で実施し、CO₂排出原単位の削減に取り組んでいます。

CO₂排出原単位とは

一定の企業活動を行う際に排出されるCO₂の量を指します。当社では、国内工場での加工高と、国内工場・本社・営業全体でのCO₂排出量から算出しています。売上や生産量の変化に影響されないため、一般的に省エネルギーの指標として使われています。

CO₂排出原単位



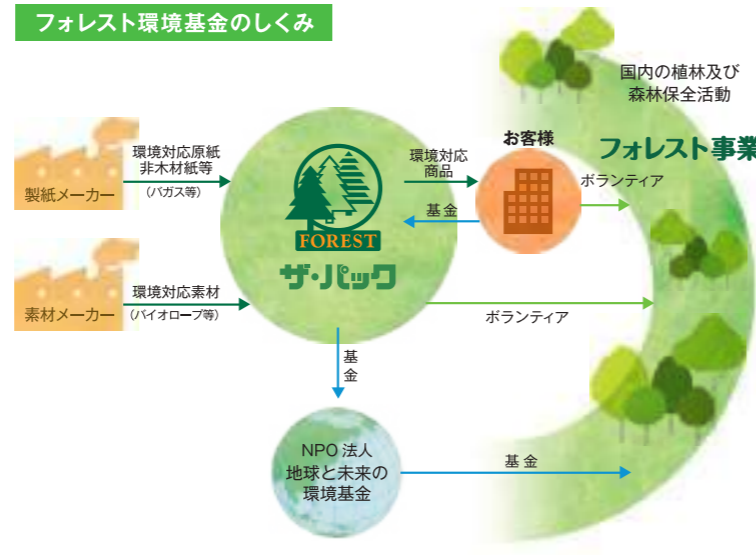
02 ザ・パックフォレスト(森林保全活動)

THE PACK FOREST



当社は1993年から環境対応商品を開発してきました。2000年に独自の森林保全活動を行う「ザ・パックフォレスト」を設立し、環境対応商品の販売額の一部をフォレスト環境基金として拠出しています。運営はNPO法人地球と未来の環境基金(EFF)※に委託し、当社社員だけでなく、お客様や一般の方にも活動に参加していただいています。お客様、行政、NPO、地元の方々、当社との協働で、今後も地域に合った森林保全活動を続けてまいります。

また、20年間の活動で蓄積したノウハウを基に、お客様が希望される独自の植樹活動をコーディネートすることで、森林保全活動を通してお客様のSDGsへの取組みのご支援もしています。



※NPO法人地球と未来の環境基金(EFF) ▶ <http://www.eco-future.net/>

これまでの活動の成果 ■参加者: 6,692人 ■植樹: 20,465本 ■CO2吸収量: 132.71トン/年 ※植林した木による1年あたりのCO2吸収量。

1号植林地 岩手県西和賀町(2001年6月植林開始)	2号植林地 奈良県吉野町(2002年3月植林開始)	3号植林地 沖縄県恩納村(2003年10月植林開始)	4号植林地 広島県竹原市(2004年11月調印式)
5号植林地 千葉県君津市(2009年2月植林開始)	6号植林地 大阪府高槻市(2009年5月調印式)	7号植林地 埼玉県日高市(2012年3月植林開始)	8号植林地 大阪府四條畷市(2016年4月調印式)

03 品質管理

Quality control



全社でISO9001の認証を取得し運用しています。全社の品質方針である「品質強化によるCSの向上」のもと、安全、安心な製品を提供し、お客様から信頼と満足を得られるよう、日々の生産活動に努めています。自社工場、グループ会社、国内外の購買先を対象に品質管理レベルの維持、向上に向け、定期的に品質パトロールを実施しています。

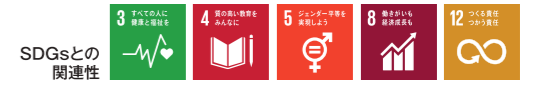
東京工場と大阪工場でFSSC22000認証を取得

当社 東京工場・大阪工場の食品用紙製包装容器製造ラインでは、食品安全マネジメントシステムの国際規格であるFSSC22000認証を取得しています。このことは、当社の食品用紙製パッケージの製造に関わるシステムが世界的な食品安全マネジメントシステムに基づいて管理されている証明になります。今後もより「安全」・「安心」なパッケージを食品メーカーや食品小売業界にお届けしていきます。

<FSSC22000認証> オランダに本部を置くFSSC財団が開発した認証プログラムで、食品安全の国際規格のISO22000と、HACCPの食品管理手法を統合した食品安全マネジメントシステムの規格です。

04 人材育成と職場づくり

Human resource development . Workplace

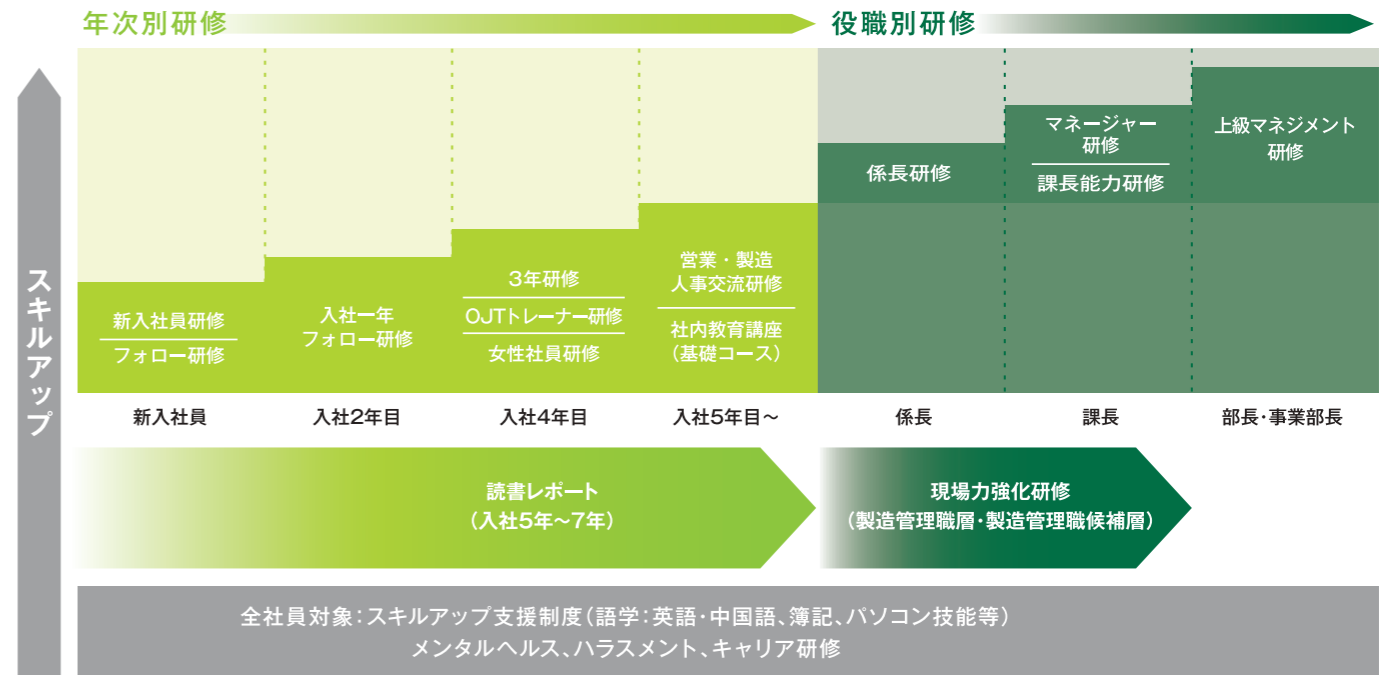


社は「愛し愛され」、経営理念「人を大切に 人を育てる経営」の考えに則り、人材育成、育児・介護支援、雇用の安定、その他社員の福利厚生に取り組んでいます。

人材育成としては「社員一人ひとりのレベルアップと強いチームワーク」を目指しています。

新入社員には、入社前、入社時、半年、1年…と、年次ごとやそのトレーナーにも研修を行う事で、若年者を両面からフォローしています。その後の役職別や職制別に加え、個人の意欲やスキルにあわせて選択できるスキルアップ支援制度も、年々充実させています。2018年にはコミュニケーション研修を追加し、生産性向上や、ハラスメント防止に努めています。

教育の体系図



健康経営優良法人2019 ~ホワイト500~ に認定

当社は、2017年3月に「健康経営宣言」を行い、西日本パッケージ健康保険組合と連携して社員の健康維持・増進と、個々の健康意識向上に取り組んでいます。心身ともに健康でイキイキと職務に取り組む、最高のパフォーマンスを発揮することで、労働生産性が高まり、企業の発展、さらには社会貢献につながると確信しています。

- <当社の主な取組み>
- ・定期健診/二次検診受診勧奨
 - ・ストレスチェックの運用
 - ・インフルエンザ予防接種実施
 - ・健康強調月間の周知
 - ・特定保健指導の開催
 - ・就業時間内の禁煙実施
 - ・勤務時間の適正化
 - ・有休取得の促進
 - ・健康研修の開催
 - ・毎朝のラジオ体操 など
- これらの取組みが評価され「健康経営優良法人2019~ホワイト500~」に認定されました。

